

札幌市立平岡中央中学校の取組

1. 研究のねらい

本校では、「教育課程の展開に寄与する」(『学校図書館法第 2 条』) 学校図書館の実現に向けた、学校図書館の支援の在り方を探ってきた。今年度は、朝の一斉読書の時間と総合的な学習の時間や行事などを結び、その目標にせまる支援を全学年へ広げた。

2 年生の図書館学習では、国内の中学校初の「読書パフォーマンス」(読み聞かせにあわせて生徒の目の前でキャンバスに絵を描き、ピアノとコンピュータで場面にあう音楽を演奏する)を実施し、生徒の表現力や発想力の育成を目指した。

2. 取組内容

(1) 全校での取組

① 全校一斉新聞読書と全校一斉新聞感想文

全校一斉新聞読書は、朝の一斉読書の時間に実施当日の朝刊 4 紙以上の中から、普段はあまり読んだことのない新聞を自分で選んで読む取組である。その後、1・3 年生では各学年の総合的な学習の時間のテーマにそって記事を切り抜き、考えを書く言語活動を図書館学習として実施した。

全校一斉新聞感想文は新聞から記事を見つけ、クラスメートなどその記事について意見を交流して、提言をまとめる言語活動である。



【記事の掲示 1 年生】

(2) 各学年での取組

① 朝の一斉読書と行事 (1 年生) 「食に関連する読書」

1 年生の炊事遠足にむけて、朝の一斉読書の時間に学校図書館にある「食」に関する本、雑誌、パンフレットを学級ごと回覧して読んだ。



【回覧した本 2 年生】

② 朝の一斉読書と国語 (2 年生) 「他者とのかわり方を考える読書—いじめのない社会の実現をめざして—」

4 種類の本を学級ごと回覧して読み、「読書生活デザインノート」に記録した。その後、記録をもとに読書生活を振り返るスピーチを国語の時間に実施した。



【生き方を考えた 3 年生】

③ 朝の一斉読書と総合的な学習の時間 (3 年生) 「生き方を考える読書」

朝の一斉読書の時間に「生きる」をテーマにした 5 種類の本を、学級ごと回覧して読んだ。その後、総合的な学習の時間に学校図書館でテーマに沿った本を各自が選び、プレゼンテーションに生かした。

④総合的な学習の時間（2年生図書館学習）「読書パフォーマンス」

読み聞かせにあわせて、画家が絵の具を直接手や指につけて真っ白なキャンバスに



【描き始めのシカは左】

描いていく。はじめは1本の線にしかみえなかったものが、やがてシカの角になり、木や川へと次々に変化していく。ピアノの伴奏はコンピュータをとおして様々な音に変化する。アイヌの楽器トンコリの素朴な音色が印象的だ。朗読



【完成した絵でシカは右】

と絵と音楽、3人の息がぴったりとあったコ

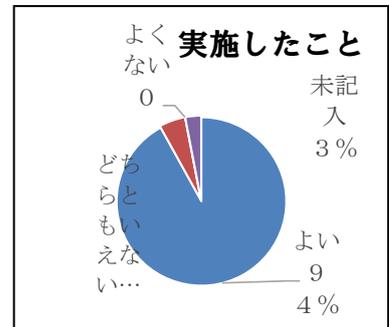
ラボレーションだった。終了後は図書館員の司会で、講師との質疑応答や感想の交流を行った。

3. 成果と課題

(1) 成果

朝の一斉読書の時間に、総合的な学習の時間や行事に関連した本などを読む取組をすべての学年に広げることができた。その過程で司書教諭の空き時間に3年生のクラスでブックトークを実施することができた。朝の一斉読書の時間に読みきれなかった本を借り、総合的な学習の時間や行事での課題解決に生かす生徒もおり、自主的な学びにつながっている様子がみられた。

2年生の読書パフォーマンス終了後に簡単なアンケートを行った結果、94%の生徒が実施を肯定的に捉えていた。ねらいとした「表現」については66%が得たものがあると回答した。生徒の感想には「講師の方々の表現力がすごく豊かだ」「音楽を考えるには絵が必要で、絵を考えるには音楽が必要ということがわかった」「ピアノ、スケッチなどをつけてやったら、わからないものまで伝わるのでよかった」などがあった。1単位時間での実施であることも勘案し、一定程度の成果があったと考えている。



【読書パフォーマンス
実施アンケート結果】

全校一斉新聞読書終了後にもアンケートを行った。年間4回の実施回数を少ないとした生徒が8%、ちょうどよいが78%、多いが14%だった。新聞を活用した全校一斉新聞感想文実施後には、希望する生徒が「いっしょに読もう新聞コンクール」（日本新聞協会主催）に応募し、うち2年生1人が奨励賞に入賞するとともに、全校での取組で学校奨励賞を受賞した。入賞結果は、新聞や地域紹介のインターネットでも紹介された。

(2) 課題

学校図書館が教育課程の展開により寄与するためには、司書教諭が直接指導できる図書館学習の時間の確保が必要と思われた。今後の課題として、司書教諭の授業時数や時間割作成などに関係者の理解と協力を求めていきたい。